

## 多摩川におけるアユの持続的活用研究

### 【研究概要】

多摩川におけるアユ資源の持続的利用のため、天然アユの汲み上げ放流および人工種苗放流について、放流後の評価を行い、最適化を図る。また、遡上数の把握および環境 DNA を活用した多摩川の広域的なアユの分布や動態の把握により、新たな漁場の創生や、親魚保全区の設定等、内水面漁業の振興や河川の有効利用のための基礎資料とする。

- ① 「天然種苗早期群」「天然種苗晚期群」「人工種苗 F2 群」「人工種苗 F4 群」の全 4 群（各 245～391 尾）をそれぞれ異なるパターンで鰭切り標識し、非漁場河川に放流した。6 月から 10 月にかけて電気ショッカーにより合計 105 尾の標識アユを採捕した結果、再捕率は天然晚期群で最も高かったが、全 4 群間で有意な差はなかった。月別にみると、6 月から 9 月までは毎月すべての群がみられたが、10 月は天然晚期群のみが採捕された。また、人工種苗は 6 月および 7 月の再捕が多い一方、天然種苗は 8 月および 9 月の採捕が多かった。採捕したアユの全長について、1 日あたりの成長量は全 4 群の間で有意差がなかった。
- ② 多摩川下流域におけるアユ遡上状況について、定置網を設置して調査を行った。令和 6 年 3 月 12 日から 5 月 28 日までのアユの累計入網数は 19,881 尾だった。調査期間中の多摩川におけるアユの遡上数は約 37 万尾と推定された。遡上数は昨年より減少し、近年では最も少なかった令和 3 年の 32 万尾に次ぐ値だった。調査結果を 5 月 31 日にプレス発表した。
- ③ 7～12 月にかけて、多摩川本支流の 21 地点で採水を行い、アユ遺伝子をデジタル PCR により定量した。うち 15 地点ではアユの直接採捕も併行した。7～8 月は浅川の 5 地点でアユ DNA が検出され、3 地点でアユが採捕された。本流では、2 地点でアユ DNA が検出され、1 地点でアユが採捕された。10～11 月は、浅川の 4 地点でアユ DNA が検出され、3 地点でアユが採捕された。本流では、4 地点でアユ DNA が検出され、アユの採捕はなかった。なお、アユ DNA 検出と直接採捕の結果はおおむね一致したが、一

致しない地点もあり、双方の組み合わせにより正確にアユ分布状況を把握できると考えられた。